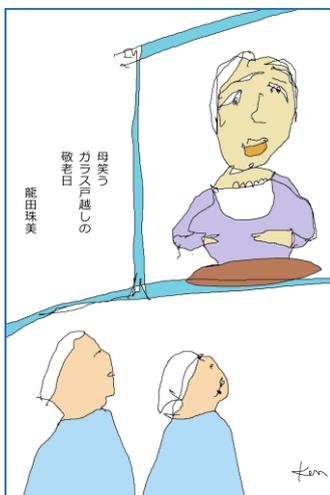


代議士の襟だけ飾る赤い羽根

高橋きのこ

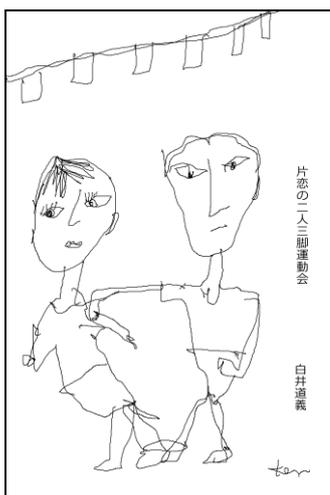
赤い羽根を胸につけるのは国会議員だけになってしまった。テレビのアナウンサーもつけるが三日が限度。鶏たちも浮かばれぬ。



母笑うガラス戸越しの敬老日

龍田珠美

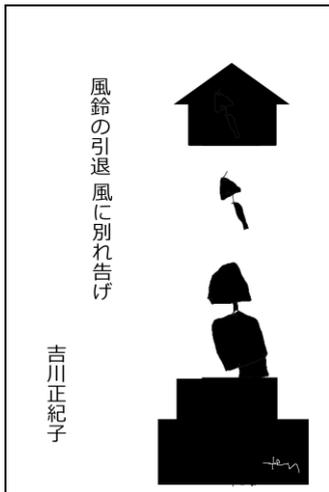
コロナの感染予防のため、病院や介護施設では家族であっても面会ができない。ガラス越しでも面会ができたのはよかった。



片恋の二人三脚運動会

白井道義

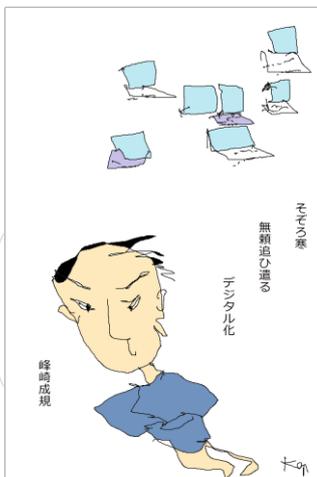
最後まで胸の内を明かすことなく運動会を迎えた。今日を最後に楽しかった練習ももうなくなる。道義君、できるだけゆっくり走りなさい。



風鈴の引退風に別れ告げ

吉川正紀子

ひと夏を一緒に過ごした風君に、風鈴は別れの挨拶をした。風はお疲れ様と声をかけ、風鈴はチリリンと応えた。小さな物語があるね。



そぞろ寒無頼追ひ遣るデジタル化

峰崎成規

菅首相がデジタル庁を設けるなど、時代は高齢者に酷な雲行きである。「不器用ですから」などとカッコつけてる場合じゃないのよ。



爽やかや口元にご飯つぶ付けて

藤森荘吉

可愛い風景だなあ。あれれ、ご老人かもしれぬ。いやいやイケメンか美女のことかも。いずれにしろ明るい声が聞こえてくるのがいいね。